

表3-2 「レベル新人」に対応した教育プログラム

到達目標: 1. 指示・手順・ガイドに従い、安全確実に助産ケアができる 2. 指示・手順・ガイドに従い、ウイメンズヘルスケアができる

		教育目的(レベル新人の目標)	教育方法と教育内容	教育の評価	
倫理的感応力	ケアリングの姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ケアリングの意味・主要な概念や理論が理解できる</li> <li>②ケアリングの重要性が理解できる</li> <li>③ケアリングの主要な概念をもとに行動できる                             <ul style="list-style-type: none"> <li>● 知ること</li> <li>● 共にいること</li> <li>● 誰かのために行うこと</li> <li>● 可能にする力を持たせること</li> <li>● 信念を維持すること</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義(ケアリングの定義・助産実践におけるケアリングの意義、実践事例の紹介)</li> <li>● OJT(自らの実践事例の振り返り)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 振り返り</li> <li>● カンファレンスへの参加度や発言内容を評価</li> </ul>	
	マタニティケア能力	<p><b>【情報収集】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①支援を受けながら、妊娠期・分娩期・産褥期の健康生活行動診断・経過診断／新生児期の経過診断に必要な情報を理解できる</li> <li>②定められたフォームに従い、情報収集できる</li> <li>③指導を受けながら、不足している情報がわかり、必要な追加情報を収集できる</li> <li>④助産ケアの基準・手順に沿って正しい用語・適切な表現で記録できる</li> <li>⑤支援を受けながら、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期におけるハイリスクの要因について理解し、関連する情報を明らかにすることができる</li> </ul> <p><b>【アセスメント／問題(ニーズ)の明確化】</b></p> <p><b>ローリスク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①周産期に関連する解剖生理を理解できる</li> <li>②妊産褥婦・新生児のバイタルサイン、検査値、身体の諸計測値の正常値がわかる</li> <li>③支援を受けながら、測定値のもつ意味を理解できる</li> <li>④支援を受けながら、収集した健康生活行動診断・経過診断の情報を分析できる</li> </ul> <p><b>ハイリスク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①周産期の代表的疾患について病態が理解できる</li> <li>②支援を受けながら、ハイリスクの要因について理解できる</li> </ul> <p><b>【診断】</b></p> <p><b>ローリスク／ハイリスク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①支援を受けながら、健康生活行動診断・経過診断によって適切に診断できる</li> </ul> <p><b>【計画立案】</b></p> <p><b>ローリスク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①妊産褥婦・新生児の現在の状態およびニーズを理解できる</li> <li>②支援を受けながら、妊産褥婦・新生児のニーズに沿って目標を設定できる</li> <li>③支援を受けながら、妊産褥婦・新生児の状態、問題リスト、目標に一貫性がある計画を立てられる</li> <li>④5W1Hを踏まえた具体的な計画を立案できる</li> <li>⑤助産ケア基準・標準助産計画を活用できる</li> </ul> <p><b>ハイリスク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①支援を受けながら、ハイリスク妊産褥婦・新生児に関して立案された助産計画を理解することができる</li> <li>②支援を受けながら、緊急時に指示された計画を理解できる</li> </ul> <p><b>【実践】</b></p> <p><b>ローリスク／ハイリスク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①助産ケアを行う前に説明できる</li> <li>②支援を受けながら、受け持ち妊産褥婦・新生児の助産ケア計画に沿ってケアができる</li> <li>③治療および診断上必要な観察を行い、適切に報告できる</li> <li>④指示された業務を、助産ケア基準・手順に沿って正しくかつ安全に実施できる</li> <li>⑤実施した結果を助産記録の手順に沿って正しく記録できる</li> <li>⑥妊産褥婦・新生児における緊急時の対応を理解している</li> <li>⑦妊産褥婦・新生児における緊急時に人を呼ぶことができる</li> <li>⑧妊産褥婦・新生児における緊急時に必要な物品を知り、手順に沿って整備できる</li> <li>⑨クリニカルパス使用の場合、それを理解できる</li> </ul> <p><b>【評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①提供した助産ケアの結果を正確に報告できる</li> <li>②助産ケアにおいてわからないことが言える(相談できる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育担当者によるOJT(各期のケアに必要な情報を、チェックリストを用いて実践前に個別に確認)</li> <li>● 講義(施設における助産記録の基準や手順等)</li> <li>● 講義(正しい助産記録の原則、記録の方法、家族参加型記録の意義と方法等)</li> <li>● 監査(監査用紙を用いた、上記原則に基づく記録の継続的指導)</li> </ul> <p><b>【妊娠期の診断とケア】</b></p> <p><b>基本的知識は、実践前にチェックリストを用いて個別に確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 実践前に教育担当者により確認(正常な妊娠の経過とケア／ローリスクからハイリスクまでの妊娠期にある女性の心理／母乳育児の意義および妊娠中のケア)</li> <li>● 講義(妊娠期における栄養／妊娠期のメンタルヘルス／妊娠期の母体感染のリスク／ハイリスク妊娠／主要な疾患に関する病態とケア[切迫流産、妊娠高血圧症候群(HDP)、前置胎盤、多胎、妊娠糖尿病(GDM)、胎児発育不全(FGR)等]／臨床薬理[子宮収縮薬含む]／検査データの見方)</li> <li>● 演習(フィジカルアセスメント:妊娠期・神経・呼吸・循環・代謝・新生児)</li> <li>● OJT(バースプラン等を活用した事例の振り返り)</li> </ul> <p><b>【例:CTGについて(講義と演習、実践)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● CTGによる胎児心拍数モニタリングの適応／正しい装着方法／判読(基礎・応用)</li> <li>● ※適応事例の判断から装着(説明)、判読および結果報告と対応を事例を通じて実践する</li> </ul> <p><b>【分娩期の診断とケア】</b></p> <p><b>基本的知識は、実践前にチェックリストを用いて個別に確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 実践前に教育担当者により確認(正常な分娩の経過とケア／ローリスクからハイリスクまでの分娩期にある女性の心理／母乳育児)</li> <li>● 講義(分娩期における栄養／分娩期のメンタルヘルス／分娩期の母体感染のリスク／ハイリスク分娩／主要な疾患に関する病態とケア[切迫流産、HDP、前置胎盤、多胎、GDM、FGR等]／臨床薬理[子宮収縮薬含む]／検査データの見方)</li> <li>● 演習(母体救急/BLS[頸管裂傷・腔壁血腫等の緊急時対応シミュレーション]／静脈注射／フリースタイル)</li> <li>● OJT(バースプラン等を活用した事例の振り返り)</li> </ul> <p><b>【産褥期の診断とケア】</b></p> <p><b>基本的知識は、実践前にチェックリストを用いて個別に確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 実践前に教育担当者により確認(正常な産褥の経過とケア／ローリスクからハイリスクまでの産褥期にある女性の心理／母乳育児)</li> <li>● 講義(産褥期における栄養／産褥期のメンタルヘルス／産褥期の母体感染のリスク／ハイリスク分娩／主要な疾患に関する病態とケア[切迫流産、HDP、前置胎盤、多胎、GDM、FGR等]／臨床薬理[子宮収縮薬含む]／検査データの見方)</li> <li>● シミュレーション(母体救急)</li> <li>● OJT(バースレビュー等を活用した事例の振り返り)</li> </ul> <p><b>【新生児期の診断とケア】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義(出生直後のフィジカルアセスメント/NCPR/新生児の解剖生理学的特徴とそれに基づくケア/ハイリスク新生児の特徴とケア/ハイリスク新生児の家族へのケア)</li> <li>● シミュレーション(出生直後のフィジカルアセスメント/NCPR)</li> <li>● ※NCPRのBコース未取得者は要取得</li> <li>● OJT(事例の振り返り)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● OJTチェックリスト</li> <li>● 知識の確認、振り返り</li> <li>● 監査項目に沿った監査と評価</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義は知識の確認と振り返り</li> <li>● OJTおよび演習は技術の確認</li> </ul>	
専門的自律能力	教育	教育指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>①継続教育プログラムの意義を理解できる</li> <li>②支援を受けながら、自己のレベルに合った院内外の研修や勉強会に積極的に参加できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義(自施設・自部署における助産師の継続教育・卒後教育)</li> <li>● 講義(学生実習の受け入れとスタッフの役割)</li> </ul>	
		自己開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>①日々の行動を振り返り、整理することができる</li> <li>②他者のアドバイスを受け止めることができる</li> <li>③支援を受けながら、自己評価と他者評価を踏まえた自己の学習課題を考えることができる</li> <li>④支援を受けながら、課題の解決に向けて必要な情報を収集し、解決に向けて行動できる</li> <li>⑤支援を受けながら、学習の成果を自らの助産ケアに活用できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義(キャリアパス/クリニカルラダー)</li> <li>● OJT</li> <li>● ※目標管理を取り入れている施設は、個人目標を立てるプロセスを活用する</li> </ul>	● 振り返り、ポートフォリオ
	研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>①院内外の研究発表会に参加し、研究に関心をもつことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義(院内外の学会や研究会の紹介/自施設・自部署における研究活動の紹介)</li> </ul>	● 院内における研究発表会への参加時の様子を確認	
	コミュニケーション(対人関係)	<p><b>ローリスク／ハイリスク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①対象のニーズを身体的・精神的・社会的側面から把握するように努められる</li> <li>②対象を一人として尊重し、傾聴・共感的な態度で接することができる(笑顔、挨拶、自己紹介、言葉遣い、約束を守る等)</li> <li>③対象中心のサービスであることを認識して接するように努められる</li> <li>④言語的・非言語的コミュニケーション技法について理解できる</li> <li>⑤支援を受けながら、対象が納得できる説明を行い、同意を得られる</li> <li>⑥守秘義務を厳守し、プライバシーに配慮できる</li> <li>⑦5W1Hを踏まえてメモをとり、正確に伝達できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義およびOJT(接遇・コミュニケーションの基本)</li> </ul>	● 振り返り	
	倫理	社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>①職務規定を理解し、それを遵守して行動できる(正当な理由なく遅刻・早退・無断欠勤をしない等)</li> <li>②規定等に基づき、速やかに報告・連絡・相談できる</li> <li>③社会人また助産師としての、自分の行動・言動に責任をもつことを理解できる</li> <li>④専門職として、自分の健康管理の必要性がわかり行動できる</li> <li>⑤助産師としてのアイデンティティをもち、その専門性・自律性を理解して実践できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義およびOJT(接遇、身だしなみ/職務規定)</li> </ul>	● その場でチェック
助産倫理		<ul style="list-style-type: none"> <li>①ICM-助産師の倫理綱領、ICN-看護師の倫理綱領、日本看護協会-看護師の倫理綱領を理解できる</li> <li>②助産業務に関連する生命倫理を意識できる</li> <li>③職業人としての自覚をもち、倫理に基づいて行動できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義およびOJT(ICM-助産師の倫理綱領/ICN-看護師の倫理綱領/日本看護協会-看護師の倫理綱領)</li> </ul>	● 振り返り	

		教育目的(レベル新人の目標)	教育方法と教育内容	教育の評価	
専門的自律能力	安全管理(メンテナン)	<b>【安全管理・安全確保】</b> ①自施設における医療安全管理体制について理解できる ②インシデント事例や事故事例を速やかに報告できる ③インシデント事例や事故事例について、支援を受けながら経過を振り返ることができる ④インシデント事例や事故事例の記録方法(報告書)がわかる ⑤周産期に起こりうる事故について、支援を受けながら予測でき対策をとることができる(新生児の取り違え、新生児の拉致、窒息、転倒・転落、熱傷、盗難等) ⑥規定に沿って適切に医療機器・医療器具を取り扱うことができる ⑦与薬の原則を理解して実施できる  <b>【感染予防】</b> ①標準予防策(スタンダード・プリコーション)・感染経路別予防策管理体制について理解できる ②①に則って行動できる(手指衛生、個人用防護具(PPE):手袋・ガウン・エプロン・マスク・ゴーグル、無菌操作、清潔・不潔の区別、医療廃棄物規定に則った適切な取り扱い等)  <b>【災害・防災管理】</b> ①自施設における災害・防災管理体制について理解できる ②自部署の管理体制(消火設備、避難経路)等がわかる ③②に基づいて日常的に行動できる(病棟入口の戸締まり、面会者の確認等) ④災害発生時の初期対応がわかる ⑤災害時、指示に従い、④の行動ができる ⑥定期的な災害・防災訓練に参画できる  <b>【情報管理】</b> ①自施設における情報管理体制について理解できる ②①に基づいて行動できる(記録、PC、パスワード、患者情報等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義(助産師に関連する法律/産科医療補償制度/看護職賠償責任保険/各種ガイドラインの活用/リスクマネジメントの基本/感染の基礎知識[母子感染含む]/災害対策の基礎知識/情報管理[施設内の情報管理規定、医療情報の取り扱い、対象への情報提供等])</li> <li>●シミュレーション(災害・防災訓練、妊産婦・新生児の緊急時の対応)</li> </ul>	●シミュレーション時の確認・振り返り	
	経済性	①支援を受けながら、費用対効果を考慮して、物品を適切に選択・準備・使用できる ②支援を受けながら、対象の負担を考慮して、物品を適切に使用できる ③支援を受けながら、時間の使い方を考えることができる	●講義およびOJT(業務管理・時間管理)		
	リーダーシップ	①施設および看護部の理念を理解できる ②施設および看護部の組織と機能を理解できる ③職場の運営方針・目標が理解できる ④チーム医療のメンバーとしての役割を理解して協働できる(報告・連絡・相談ができる、事実を正しく報告できる) ⑤係活動に参加し、その役割が理解できる ⑥同僚や他の職種とコミュニケーションできる	●講義(院内助産・助産師外来における助産師の役割/所属する組織とその役割・医療提供体制/メンバーシップ/目標による管理/チーム医療における助産師の役割や連携・協働のあり方)	●振り返り	
		中項目	教育目的(レベル新人の目標)	教育方法と教育内容	教育の評価
ウィメンズヘルスケア能力	女性のライフサイクルの観点からの対象理解	女性のライフサイクルの観点から、女性の成長に伴う身体、精神と社会的機能状況(セクシュアリティやジェンダー含む)からの対象理解	①女性の成長に伴う身体、精神と社会的機能状況について学習できる	●講義(女性のライフサイクル、ライフステージにおける女性の身体的、精神的、社会的特徴と課題)	●講義やカンファレンスへの参加度、発言内容、理解度(知識の確認)を評価 ●振り返り(リフレクション、レポート等)
		女性とその家族の発達段階のアセスメントと理解	①女性とその家族の発達段階について学習できる	●講義(女性とその家族の発達段階と支援)	
		女性のライフサイクル特有の問題に関する自身の健康への自覚と管理に向けた啓発活動と評価	①女性のライフサイクル特有の問題を学習し、自身の健康の自覚をする	●講義(女性が自身の健康への自覚を促す健康教育の運営、啓発活動の手段と方法、事例紹介等) ●OJT(思春期や更年期等女性のライフサイクルに関する健康教育場面への参加)	
		女性特有の疾患(婦人科疾患、骨粗鬆症等)のアセスメント、支援と評価	①女性特有の疾患について学習できる	●講義(病態生理、治療、女性の心身・社会的機能への影響、女性特有の健康教育と運営等) ●レポート(病態生理、治療、女性の心身・社会的機能への影響について文献を用いてまとめる) ●OJT(シャドーイング) ●カンファレンス(事例紹介とアセスメント、支援方法についてディスカッション)	
	リプロダクティブヘルス/ライツに基づく支援	産前・産後のメンタルヘルスケア	①妊娠、出産、育児に関連する女性の性周期、身体、精神と社会的機能や役割の変化に伴うメンタルヘルスについて学習できる	●講義(教育項目参照) ●カンファレンス(事例紹介とアセスメント、支援方法についてディスカッション) ●OJT(健康教育場面への参加)	●講義やカンファレンスへの参加度、発言内容、理解度(知識の確認)を評価 ●振り返り(リフレクション、レポート等)
		妊娠期からの子育て支援による胎児を含む子どもの虐待予防の支援	①妊娠期からの子育て支援による胎児を含む子どもの虐待予防について学習できる		
		妊娠から子育て期において支援を必要とする母親とその家族の支援	①妊娠から子育て期において特に支援を要する母親(特定妊婦や虐待予防の支援を要する妊産婦等)とその家族について学習できる		
		不妊、不育の悩みをもつ女性の支援(出生前診断含む)	①不妊症、不育症(出生前診断含む)について学習できる		
		家族計画の支援	①家族計画について学習できる		
		性感染症予防の支援	①性感染症について学習できる		
月経異常や月経障害等を有する女性の支援(更年期の女性へのケアを含む)	①月経異常や月経障害等について学習できる				
女性に対する暴力予防の支援(モラルハラスメント、DV、セクシュアルハラスメント、性的虐待を含む)	①女性に対する暴力について学習できる				
予期せぬ妊娠をした女性の支援	①予期せぬ妊娠について学習できる				
多様な性の支援	①多様な性について学習できる				
女性のメンタルヘルスケア	①女性の性周期や身体、精神と社会的機能や役割の変化に伴う女性のメンタルヘルスについて学習できる				

表3-3 「レベルI」に対応した教育プログラム

到達目標:1. 健康生活支援の援助のための知識・技術・態度を身につけ、安全確実に助産ケアができる  
3. ハイリスク事例についての病態と対処が理解できる

2. 院内助産・助産師外来について、その業務内容を理解できる  
4. 支援を受けながら、基礎的な知識・技術・態度を身につけ、ウィメンズヘルスケアができる

		教育目的(レベルIの目標)	教育方法と教育内容	教育の評価
倫理的感応力	ケアリングの姿勢	①ケアリングの意味・主要な概念や理論が理解できる ②ケアリングの重要性が理解できる ③ケアリングの主要な概念をもとに行動できる <ul style="list-style-type: none"> <li>● 知ること</li> <li>● 共にいること</li> <li>● 誰かのために行うこと</li> <li>● 可能にする力を持たせること</li> <li>● 信念を維持すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義(周産期領域におけるケアリングとは)</li> <li>● OJT/カンファレンス等(自らの実践事例の振り返り)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● カンファレンスへの参加度や発言内容から評価</li> <li>● 事例を振り返ったレポートを評価</li> </ul>
	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の診断とケア/分娩期の配慮の視点	<b>【情報収集】</b> ①妊娠期・分娩期・産褥期の健康生行動態診断・経過診断/新生児期の経過診断に必要な情報を収集できる ②不足している情報がわかり、必要な追加情報を収集できる ③指導を受けながら、アセスメントに必要な情報を整理できる ④正しい用語、適切な表現で記録できる ⑤妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期におけるハイリスクの要因について理解し、関連する情報を明らかにすることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● OJT(場面の再構成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 場面の再構成をレポート</li> </ul>
マタニティケア能力	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の診断とケア/分娩期の配慮の視点	<b>【アセスメント/問題(ニーズ)の明確化】</b> <b>ローリスク</b> ①妊産褥婦の正常経過および新生児の生理が理解できる ②支援を受けながら、収集した健康生行動態診断・経過診断の情報を分析できる <b>ハイリスク</b> ①母体および新生児に関する周産期の代表的疾患・病態生理および検査、多胎妊娠のリスクについて理解できる ②①に基づき妊産褥婦および新生児の異常への対処と援助が理解できる ③ハイリスクの要因について理解できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義および演習(仰臥位以外の分娩)</li> <li>● CTGに関連した研修</li> <li>● OJT(左記内容について場面の再構成/CTG装着と判定(CTGの判読/実践場面での判断の振り返り)/緊急時の対処法の振り返り)</li> </ul> <b>【例:CTG装着と判定のスキルチェック】</b> ①CTGによる胎児心拍数モニタリングの適応が理解できる ②正しく装着できる ③各ガイドラインに基づいた判読ができる(異常も詳細に判別できる) ④モニタリング結果に応じた報告・対応ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● レポートまたは技術のチェック</li> </ul>
	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の診断とケア/分娩期の配慮の視点	<b>【診断】</b> <b>ローリスク/ハイリスク</b> ①必要に応じて支援を受けながら、健康生行動態診断・経過診断によって適切に診断できる		
専門的自律能力	教育	<b>【計画立案】</b> <b>ローリスク</b> ①妊産褥婦・新生児のニーズに沿って目標を設定できる ②妊産褥婦・新生児の状態、問題リスト、目標に一貫性がある計画を立てられる ③5W1Hを踏まえた具体的な計画を立案できる ④支援を受けながら、妊産褥婦および家族参加型の助産計画を立案できる <b>ハイリスク</b> ①支援を受けながら、ハイリスク妊産褥婦・新生児に関して助産計画を立案できる ②緊急時に指示された計画を理解できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 内部または外部講義(教育と指導(患者教育および小集団教育))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実際を評価</li> <li>● 振り返り</li> </ul>
	自己開発	<b>【実践】</b> <b>ローリスク/ハイリスク</b> ①助産ケアを行う前に説明できる ②支援を受けながら、基本的助産技術が実施できる ③担当した対象について、助産ケア計画に基づき、基準や手順に則り安全確実に助産ケアを実践できる ④助産ケア基準・手順に沿って正しい用語・適切な表現で記録できる ⑤帝王切開術の産婦・新生児の病態と対処が理解できる ⑥妊産褥婦・新生児における緊急時の対処方法が理解できる ⑦クリニカルパス使用の場合、パスに沿って実践できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● キャリアカウンセリング/目標管理面接</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 振り返り</li> </ul>
専門的自律能力	研究	①日常の行動の中で「なぜそうするのか」を考えることができる ②自らの関心に合わせて、院内外の研究発表会に参加できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 内部または外部講義(臨床で研究を行う意義/看護研究の方法(基礎:実施を含む文献検索と文献の活用、データの収集と分析方法等))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 振り返り</li> </ul>
	コミュニケーション(対人関係)	<b>ローリスク/ハイリスク</b> ①対象のニーズを身体的・精神的・社会的側面から把握できる ②対象中心のサービスであることを認識して接することができる(忙しさを言い訳にしたり自らの業務中心になつたりすることのないよう努める) ③言語的・非言語的コミュニケーション技法を用いてコミュニケーションできる ④対象が納得できる説明を行い、同意を得られる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義(コミュニケーションの基本/具体的な対応)</li> <li>● OJT・レポート(左記内容について事例を用いたレポート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 振り返り(レポートやOJTにおいて、レベルに合った診断・行動・評価ができていないかを抽出して上司・同僚等と検討)</li> </ul>
倫理	社会性	①職務規定を理解し、それを遵守して行動できる(正当な理由なく遅刻・早退・無断欠勤をしない等) ②規定等に基づき、速やかに報告・連絡・相談できる ③社会人また助産師としての自分の行動・言動に責任をもつことを理解できる ④専門職として、自分の健康管理の必要性がわかり行動できる ⑤助産師としてのアイデンティティをもち、その専門性・自律性を理解して実践できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義(接遇・コミュニケーションの基本と具体的な対応/助産師としての専門性・自律性)</li> <li>● OJT・レポート(左記内容について事例を用いたレポート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 振り返り(レポートやOJTにおいて、レベルに合った診断・行動・評価ができていないかを抽出して上司・同僚等と検討)</li> </ul>
	助産倫理	①ICM-助産師の倫理綱領、ICN-看護師の倫理綱領、日本看護協会-看護師の倫理綱領について、日常の助産ケアに関連づけて理解できる ②倫理原則を理解できる ③助産ケアは法的根拠に基づくものであることを理解できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 内部または外部講義(倫理原則)</li> </ul>	

		教育目的(レベルIの目標)	教育方法と教育内容	教育の評価
専門的自律能力	管理(マネジメント)	<b>【安全管理・安全確保】</b> ①自施設における医療安全管理体制について理解できる ②インシデント事例や事故事例を速やかに報告できる ③インシデント事例や事故事例について、支援を受けながら経過を振り返ることができる ④インシデント事例や事故事例についての報告・記録方法(報告書)がわかる ⑤周産期に起こりうる事故について、支援を受けながら予測でき対策をとることができる(新生児の取り違え、新生児の拉致、窒息、転倒・転落、熱傷、盗難等) ⑥規定に沿って適切に医療機器・医療器具を取り扱うことができる ⑦与薬の原則を理解して実施できる  <b>【感染予防】</b> ①標準予防策(スタンダード・プリコーション)・感染経路別予防策について行動できる ②①に則って行動できる(手指衛生、個人用防護具[PPE]:手袋・ガウン・エプロン・マスク・ゴーグル、無菌操作、清潔・不潔の区別、医療廃棄物規定に則った適切な取り扱い等)  <b>【災害・防災管理】</b> ①自施設における災害・防災管理体制について理解できる ②自部署の管理体制(消火設備、避難経路)等がわかる ③②に基づいて日常的に行動できる(病棟入口の戸締まり、面会者の確認等) ④災害発生時の初期対応がわかる ⑤災害時、指示に従い、④の行動ができる ⑥定期的な災害・防災訓練に参画できる  <b>【情報管理】</b> ①自施設における情報管理体制について理解できる ②①に基づいて行動できる(記録、PC、パスワード、患者情報等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義とOJT(周産期に特徴的なインシデントやアクシデント)</li> <li>●講義とOJT(周産期に特徴的な感染対策)</li> <li>●講義とOJT(感染防止の基本行動)</li> <li>●OJT(災害対策)</li> <li>●講義とOJT(薬剤管理〔毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤管理含む〕)</li> </ul> ※周産期に必須のガイドラインの例: 「産科医療補償制度」に関連する事項 「助産業務ガイドライン」 「産婦人科診療ガイドライン」	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義は知識の確認、振り返り</li> <li>●他は実際の場面での振り返り(チェックリストがあるとよりよい)</li> <li>●シミュレーションでは、チームのメンバーとして指示どおり動けるかをその場で確認</li> </ul>
	経済性	①費用対効果を考慮して、物品を適切に選択・準備・使用できる ②対象の負担を考慮して、物品を適切に使用できる ③支援を受けながら、時間内に必要な助産ケアができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●OJT(物品管理、コスト管理)</li> </ul>	
	リーダーシップ	①施設および看護部の理念を理解し、行動できる ②施設および看護部の組織と機能を理解し、行動できる ③職場の運営方針・目標が理解できる ④チーム医療のメンバーとしての役割を理解して支援を受けながら協働できる ⑤係活動に参加し、その役割を理解して行動できる ⑥同僚や他の職種と必要なコミュニケーションができる ⑦職種による考え方の相違を理解できる ⑧リーダーの役割を理解できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義とOJT(メンバーシップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●振り返り</li> </ul>

		中項目	教育目的(レベルIの目標)	教育方法と教育内容	教育の評価
専門的自律能力	女性のライフサイクルの観点からの対象理解	女性のライフサイクルの観点から女性の成長に伴う身体、精神と社会的機能状況(セクシュアリティやジェンダー含む)からの対象理解	①女性の成長に伴う身体、精神と社会的機能状況について、共感的態度をもち、対象への理解を示すことができる	●カンファレンス(事例紹介と対象理解についてディスカッション)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義やカンファレンスへの参加度、発言内容、理解度(知識の確認)を評価</li> <li>●振り返り(リフレクション、レポート等)</li> </ul>
		女性とその家族の発達段階のアセスメントと理解	①女性とその家族をアセスメントし理解できる	●カンファレンス(事例紹介とアセスメントについてディスカッション)	
		女性のライフサイクル特有の問題に関する自身の健康への自覚と管理に向けた啓発活動と評価	①女性のライフサイクル特有の問題の管理に向けた健康教育を理解できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義(女性が自身の健康への自覚を促す健康教育の運営、啓発活動の手段と方法、事例紹介等)</li> <li>●OJT(思春期や更年期等女性のライフサイクルに関する健康教育場面への参加)</li> </ul>	
		女性特有の疾患(婦人科疾患、骨粗鬆症等)のアセスメント、支援と評価	①女性特有の疾患を有する女性の支援に必要な医学的知識や女性の身体、精神と社会的機能状況のアセスメント、支援方法について理解できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義(病態生理、治療、女性の心身・社会的機能への影響、女性特有の健康教育と運営等)</li> <li>●レポート(病態生理、治療、女性の心身・社会的機能への影響について文献を用いてまとめる)</li> <li>●OJT(シャドウイング)</li> <li>●カンファレンス(事例紹介とアセスメント、支援方法についてディスカッション)</li> </ul>	
	リプロダクティブヘルス/ライツに基づく支援	産前・産後のメンタルヘルスケア	①産前・産後のメンタルヘルスケア支援に必要な知識やアセスメント、支援方法について理解することができる ②産前・産後の支援に係る健康教育を理解できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義(教育項目参照)</li> <li>●カンファレンス(事例紹介とアセスメント、支援方法についてディスカッション)</li> <li>●OJT(健康教育場面への参加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義やカンファレンスへの参加度、発言内容、理解度(知識の確認)を評価</li> <li>●振り返り(リフレクション、レポート等)</li> </ul>
		妊娠期からの子育て支援による胎児を含む子どもの虐待予防の支援	①妊娠期からの子育て支援による胎児を含む子どもの虐待予防の支援に必要な知識やアセスメント、支援方法について理解できる ②胎児を含む子どもの虐待の予防、発見と支援に係る健康教育を理解できる		
		妊娠から子育て期において支援を必要とする母親とその家族の支援	①妊娠から子育て期における母親とその家族の支援に必要な知識やアセスメント、支援方法について理解できる ②妊娠から子育て期における母親とその家族の支援に係る健康教育を理解できる		
		不妊、不育の悩みをもつ女性の支援(出生前診断含む)	①不妊、不育の悩みをもつ女性とパートナーの支援に必要な医学的知識や不妊や不育の悩みをもつ女性とパートナーの身体、精神と社会的機能状況について理解できる ②不妊症、不育症に係る健康教育を理解できる		
		家族計画の支援	①家族計画の支援に必要な医学的知識や女性とパートナーの身体、精神と社会的機能状況のアセスメント、支援方法について理解できる ②家族計画に係る健康教育を理解できる		
		性感染症予防の支援	①性感染症予防に係る支援に必要な医学的知識や性感染症に罹患している女性とパートナーの身体、精神と社会的機能状況のアセスメント、支援方法について理解できる ②性感染症予防に係る健康教育を理解できる		
専門的自律能力	リプロダクティブヘルス/ライツに基づく支援	月経異常や月経障害等を有する女性の支援(更年期の女性へのケアを含む)	①月経異常や月経障害等を有する女性の支援に必要な医学的知識や月経異常や月経障害等を有する女性の身体、精神と社会的機能状況のアセスメント、支援方法について理解できる ②月経異常や月経障害等に係る健康教育を理解できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義(教育項目参照)</li> <li>●カンファレンス(事例紹介とアセスメント、支援方法についてディスカッション)</li> <li>●OJT(健康教育場面への参加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義やカンファレンスへの参加度、発言内容、理解度(知識の確認)を評価</li> <li>●振り返り(リフレクション、レポート等)</li> </ul>
		女性に対する暴力予防の支援(モラルハラスメント、DV、セクシュアルハラスメント、性的虐待を含む)	①暴力を受けた女性の支援に必要な知識や暴力を受けた女性の身体、精神と社会的機能状況のアセスメント、支援方法について理解できる ②女性に対する暴力予防に係る健康教育を理解できる		
		予期せぬ妊娠をした女性の支援	①予期せぬ妊娠をした女性の支援に必要な知識や予期せぬ妊娠をした女性の身体、精神と社会的機能状況のアセスメント、支援方法について理解できる ②予期せぬ妊娠に係る健康教育を理解できる		
		多様な性の支援	①多様な性の支援に必要な知識や多様な性の身体、精神と社会的機能状況のアセスメント、支援方法について理解できる ②多様な性に係る健康教育を理解できる		
専門的自律能力	リプロダクティブヘルス/ライツに基づく支援	女性のメンタルヘルスケア	①女性のメンタルヘルスケア支援に必要な知識やアセスメント、支援方法について理解できる ②女性のメンタルヘルスに係る健康教育を理解できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義(教育項目参照)</li> <li>●カンファレンス(事例紹介とアセスメント、支援方法についてディスカッション)</li> <li>●OJT(健康教育場面への参加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義やカンファレンスへの参加度、発言内容、理解度(知識の確認)を評価</li> <li>●振り返り(リフレクション、レポート等)</li> </ul>

表3-4 「レベルII」に対応した教育プログラム

到達目標: 1. 助産過程を踏まえ個別的なケアができる  
 2. 支援を受けながら、助産師外来においてケアができる  
 3. 先輩助産師とともに、院内助産においてケアができる  
 4. ローリスク/ハイリスクの判別および初期介入ができる  
 5. 特徴的な事例について、ウィメンズヘルスクアができる

		教育目的(レベルIIの目標)	教育方法と教育内容	教育の評価	
感応力	倫理的	①レベルに合った対象へのケアについて、ケア提供した事例を具体的に思い浮かべながら、助産師としての姿勢を自己評価できる(ケアリング実践のための自己課題を明確にできる)	●カンファレンス(教育担当者や同僚とともに:自らの実践事例より、ケアリング行動や、妊産褥婦・家族にとっての意味を考える/今後の自らの助産実践における課題を明確にする)	●カンファレンスへの参加度や発言内容から教育担当者が評価し、本人へコメント	
	姿勢	①レベルに合った対象へのケアについて、ケア提供した事例を具体的に思い浮かべながら、助産師としての姿勢を自己評価できる(ケアリング実践のための自己課題を明確にできる)	●カンファレンス(教育担当者や同僚とともに:自らの実践事例より、ケアリング行動や、妊産褥婦・家族にとっての意味を考える/今後の自らの助産実践における課題を明確にする)	●カンファレンスへの参加度や発言内容から教育担当者が評価し、本人へコメント	
マタニティケア能力	妊娠・分娩・産褥期・新生児期の診断とケア/分娩期の配慮の視点	<b>【情報収集】</b> ①妊娠・分娩・産褥期の健康生行動診断・経過診断/新生児期の経過診断に必要な情報を個別的な助産ケアのために収集できる ②アセスメントに必要な情報を整理できる ③妊娠・分娩・産褥期・新生児期におけるハイリスクの要因について、個別性に合わせて関連する情報を明らかにすることができる	●左記内容について事例を用いたレポート(場面を再構成できるように記述する)	●左記目標に挙げた内容について、レベルに合った診断・行動・評価ができていないかをレポートから抽出して、上司・同僚等と検討	
		<b>【アセスメント/問題(ニーズ)の明確化】</b> <b>ローリスク</b> ①収集した健康生行動診断・経過診断の情報を分析できる ②妊産褥婦・新生児のニーズを明確にできる ③ニーズの優先順位を決定することができる <b>ハイリスク</b> ①妊産褥婦・新生児に起こりうるあるいは起こっている問題を明確にできる ②問題の優先順位を決定することができる ③支援を受けながら、ハイリスクの要因について明らかにすることができる <b>【診断】</b> <b>ローリスク/ハイリスク</b> ①健康生行動診断・経過診断によって適切に診断できる ②診断した内容から問題の優先順位を考えることができる <b>【計画立案】</b> <b>ローリスク</b> ①妊産褥婦・新生児の個別性を踏まえた助産計画を立案できる ②立案した助産計画を評価・修正できる ③妊産褥婦および家族参加型の助産計画を立案できる <b>ハイリスク</b> ①ハイリスク妊産褥婦・新生児に関する、個別性・優先度を考慮した助産計画を立案できる ②必要時支援を受けながら緊急時に指示された母体・胎児/新生児に必要な計画を立案できる <b>【実践】</b> <b>ローリスク/ハイリスク</b> ①助産ケア計画に則り実践できる ②妊産褥婦・新生児の状態や反応を判断しながら、必要なケアが行える ③現在挙げられているニーズや問題以外の新しい情報を、時期を逸せず記録し、計画の追加や修正ができる ④妊産褥婦・新生児における緊急時にチームメンバーとして行動できる <b>【評価】</b> ①提供した助産ケアの結果を、根拠に基づき評価できる ②目標の達成度の結果を評価でき、計画を修正できる ③行ったケアを要約して説明・記述できる ④クリニカルパス使用の場合、パリアンスを評価できる	●レポート(場面を再構成できるように記述する/妊娠・分娩・産褥・新生児期すべてを網羅する(各期で分けて書いてもよい))		
専門的自律能力	教育	教育指導	①継続教育プログラムや院内外の研修に、目的をもって自主的に参加できる ②自施設における教育指導に参加できる(新人や後輩、学生への教育・指導) ③妊産褥婦を対象とした保健指導が実施できる(個別・小集団) ④教育における評価が理解できる	●内部または外部講義(教育と指導(成人教育・職員教育・学生指導)) ●振り返り	●知識の確認、振り返り
		自己開発	①自己課題を明確にできる ②主体的に、課題の解決に向けて必要な情報を収集し、解決に向けて行動できる ③学習の成果を自らおよび施設における助産ケアに活用できる	●キャリアカウンセリング/目標管理面接	●振り返り
	研究	①日常の実践から、研究疑問を見出すことができる ②メンバーとして研究に参画できる	●内部または外部講義(研究計画の立て方) ●OJT(研究実践する/学会等に1回は参加する)		
	対人関係	コミュニケーション ●ローリスク/ハイリスク ①妊産褥婦の言動を手がかりに潜在するニーズや問題に気づき、理解することができる ②助産計画の修正・追加時等に、主体的に妊産褥婦・家族が納得できる説明を行い、同意を得られる	●内部または外部講義(コミュニケーション/困難事例への対応等) ●OJT ●左記内容について事例を用いたレポート	●知識の確認、振り返り ●学会等の参加状況の確認 ●左記目標に挙げた内容について、レベルに合った診断・行動・評価ができていないかをレポートから抽出して上司・同僚等と検討	
	倫理	社会性	①職務規定を理解し、それを遵守して行動できる(正当な理由なく遅刻・早退・無断欠勤をしない等) ②規定等に基づき、速やかに報告・連絡・相談できる ③社会人また助産師としての自分の行動・言動に責任をもつことを理解できる ④専門職として、自分の健康管理の必要性がわかり行動できる ⑤助産師としてのアイデンティティをもち、その専門性・自律性を理解して実践できる	●内部または外部講義(生命倫理)	
		助産倫理	①妊産褥婦・家族の価値観を理解できる ②価値の多様性、互いの価値を尊重することの重要性を理解し、行動できる ③支援を受けながら、法的根拠に基づいた実践ができる	●左記内容について事例を用いたレポート	●左記目標に挙げた内容について、レベルに合った行動ができていないかをレポートから抽出して上司・同僚等と検討
	管理(マネジメント)	安全	<b>【安全管理・安全確保】</b> ①インシデント事例や事故事例について、経過を振り返ることができる ②インシデント事例や事故事例について、支援を受けながら今後活かせる対策を考えることができる ③周産期に起こりうる事故を予測でき、対策をとることができる(新生児の取り違え、新生児の拉致、窒息、転倒・転落、熱傷、盗難等) ④事故発生時、対象の生命を優先して判断し行動できる <b>【感染予防】</b> ①自施設の体制に則って行動できる <b>【災害・防災管理】</b> ①災害時に、主体的に初期対応が実践できる <b>【情報管理】</b> ①自施設の体制に則って行動できる	●講義と演習(インシデント・アクシデント分析方法) ●OJT(感染対策/災害対策) ●シミュレーション(災害・防災訓練/妊産褥婦・新生児の緊急時の対応)	●シミュレーションでは、リーダーとしての役割が実践できることを実際に確認、振り返り
		経済性	①費用対効果を考慮して、自ら工夫して物品を適切に選択・準備・使用できる ②対象の負担を考慮して、対象の意見を聞き、自ら工夫しながら物品を適切に使用できる ③自ら調整して、時間内に必要な助産ケアができる	●講義とOJT(周産期にかかわる医療制度)	●知識の確認、振り返り
リーダーシップ		①よりよいチームワークを目指して的確に行動できる ②リーダーシップの概念が理解できる ③助産チームの業務が円滑かつ的確に実施できるよう、チームメンバーに指示できる	●講義とOJT(リーダーシップ/問題解決技法)		

		中項目	教育目的(レベルIIの目標)	教育方法と教育内容	教育の評価
女性のライフサイクルの観点からの対象理解		女性のライフサイクルの観点から、女性の成長に伴う身体、精神と社会的機能状況(セクシュアリティやジェンダー含む)からの対象理解	①女性のライフサイクルの観点をアセスメントした支援を計画し、対象への理解を示せる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事例を用いたレポートと計画立案(女性のライフステージの特徴を反映させる)</li> <li>●OJT(実践のシャドーイング)</li> <li>●シミュレーション(自身やピアの事例再現)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●レポート評価(計画がライフステージの特徴を反映した内容となっているか)</li> <li>●シャドーイング内容を踏まえたディスカッションの内容を評価</li> <li>●振り返り・ピアレビュー(シミュレーション内容を同僚・上司・教育係りと検討・評価)</li> </ul>
		女性とその家族の発達段階のアセスメントと理解	①女性とその家族の発達段階をアセスメントし、支援を計画できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事例を用いたレポートと計画立案(女性とその家族の発達段階を反映させる)</li> <li>●OJT(実践のシャドーイング)</li> <li>●シミュレーション(自身やピアの事例再現)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●レポート評価(計画が女性と家族の発達段階を反映した内容となっているか)</li> <li>●シャドーイング内容を踏まえたディスカッションの内容を評価</li> <li>●振り返り・ピアレビュー(シミュレーション内容を同僚・上司・教育係りと検討・評価)</li> </ul>
		女性のライフサイクル特有の問題に関する自身の健康への自覚と管理に向けた啓発活動と評価	①女性のライフサイクル特有の問題の管理に向けた健康教育を計画できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●レポート(ライフステージの特徴を反映させた健康教育の計画立案や啓発活動の実践について。健康教育テーマ例:学童期～思春期を対象に女性の二次性徴、中年期を対象とした更年期障害等)</li> <li>●OJT(健康教育への参加)</li> <li>●シミュレーション(立案した計画の再現)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●レポート評価(内容が女性のライフステージの特徴を反映した内容となっているか)</li> <li>●OJTを踏まえたレポートやシミュレーション構成となっているか</li> <li>●振り返り・ピアレビュー(シミュレーション内容を同僚・上司・教育係りと検討・評価)</li> </ul>
		女性特有の疾患(婦人科疾患、骨粗鬆症等)のアセスメント、支援と評価	①女性特有の疾患を有する女性の支援を計画できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事例を用いたレポートと支援の計画立案</li> <li>●OJT(実践のシャドーイング)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●レポート評価(計画が女性特有の疾患を有する女性の特徴を反映した内容となっているか)</li> <li>●シャドーイング内容を踏まえたディスカッションの内容を評価</li> <li>●振り返り・ピアレビュー(計画内容を同僚・上司・教育係りと検討・評価)</li> </ul>
リプロダクティブヘルス/ライオンに基づく支援	ウイメンズヘルスケア能力	産前・産後のメンタルヘルスケア	①指導を受けながら、産前・産後のメンタルヘルスケアを計画・実施・評価できる ②指導を受けながら、産前・産後のメンタルヘルスに係る健康教育を計画・実施・評価できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事例を用いたレポート/産前・産後のメンタルヘルスケアを要する女性(とパートナー)への支援や健康教育を計画立案</li> <li>●関連する行政・保健医療職との連携についてレポーティング</li> <li>●シミュレーション(同僚・上司・教育係りを対象に計画した支援の場面、健康教育の運営と実施)</li> <li>●カンファレンス(病棟カンファレンス、ケースカンファレンス等への参加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●レポート、立案計画の内容評価</li> <li>●振り返り・ピアレビュー(シミュレーション内容を同僚・上司・教育係りと検討・評価)</li> <li>●カンファレンスの理解度</li> </ul>
		妊娠からの子育て支援による胎児を含む子どもの虐待予防の支援	①指導を受けながら、妊娠からの子育て支援による胎児を含む子どもの虐待予防を計画・実施・評価できる ②指導を受けながら、子どもの虐待予防に係る健康教育を計画・実施・評価できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事例を用いたレポート/胎児を含む子どもの虐待予防への支援や健康教育を計画立案</li> <li>●関連する行政・保健医療職との連携についてレポーティング</li> <li>●シミュレーション(同僚・上司・教育係りを対象に計画した支援の場面、健康教育の運営と実施)</li> <li>●カンファレンス(病棟カンファレンス、ケースカンファレンス等への参加)</li> </ul>	
		妊娠から子育て期において支援を必要とする母親とその家族の支援	①指導を受けながら、妊娠から子育て期における母親とその家族の支援を計画・実施・評価できる ②指導を受けながら、妊娠から子育て期における母親とその家族の支援に係る健康教育を計画・実施・評価できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事例を用いたレポート/子育て期において支援を要する女性とその家族への支援や健康教育を計画立案</li> <li>●関連する行政・保健医療職との連携についてレポーティング</li> <li>●シミュレーション(同僚・上司・教育係りを対象に計画した支援の場面、健康教育の運営と実施)</li> <li>●カンファレンス(病棟カンファレンス、ケースカンファレンス等への参加)</li> </ul>	
		不妊、不育の悩みをもつ女性の支援(出生前診断含む)	①不妊、不育の悩みをもつ女性とパートナーの支援を計画できる ②不妊症、不育症に係る健康教育を計画できる ③関連する保健医療職と連携できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事例を用いたレポート/不妊、不育の悩みをもつ女性とパートナーへの支援や健康教育を計画立案</li> <li>●関連する保健医療職との連携についてレポーティング</li> <li>●シミュレーション(同僚・上司・教育係りを対象に計画した支援の場面、健康教育の運営と実施)</li> <li>●カンファレンス(病棟カンファレンス、ケースカンファレンス等への参加)</li> </ul>	
		家族計画の支援	①女性とパートナーに対して、家族計画の支援を計画できる ②家族計画に係る健康教育を計画できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事例を用いたレポート/女性とパートナーに対する家族計画の支援や健康教育を計画立案</li> <li>●シミュレーション(同僚・上司・教育係りを対象に計画した支援の場面、健康教育の運営と実施)</li> <li>●カンファレンス(病棟カンファレンス、ケースカンファレンス等への参加)</li> </ul>	
		性感染症予防の支援	①性感染症に罹患している女性とパートナーの支援を計画できる ②性感染症予防に係る健康教育を計画できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事例を用いたレポート/性感染症に罹患している女性とパートナーへの支援や健康教育を計画立案</li> <li>●シミュレーション(同僚・上司・教育係りを対象に計画した支援の場面、健康教育の運営と実施)</li> <li>●カンファレンス(病棟カンファレンス、ケースカンファレンス等への参加)</li> </ul>	
		月経異常や月経障害等を有する女性の支援(更年期の女性へのケアを含む)	①月経異常や月経障害等を有する女性の支援を計画できる ②月経異常や月経障害等に係る健康教育を計画できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事例を用いたレポート/月経異常や月経障害等を有する女性への支援や健康教育を計画立案</li> <li>●シミュレーション(同僚・上司・教育係りを対象に計画した支援の場面、健康教育の運営と実施)</li> <li>●カンファレンス(病棟カンファレンス、ケースカンファレンス等への参加)</li> </ul>	
		女性に対する暴力予防の支援(モラルハラスメント、DV、セクシュアルハラスメント、性的虐待を含む)	①暴力を受けた女性の支援を計画できる ②指導を受けながら、女性に対する暴力予防に係る健康教育を計画できる ③女性を守るために必要な行政・保健医療機関と連携できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事例を用いたレポート/暴力を受けた女性への支援や健康教育を計画立案</li> <li>●関連する行政・保健医療職との連携についてレポーティング</li> <li>●シミュレーション(同僚・上司・教育係りを対象に計画した支援の場面、健康教育の運営と実施)</li> <li>●カンファレンス(病棟カンファレンス、ケースカンファレンス等への参加)</li> </ul>	
		予期せぬ妊娠をした女性の支援	①予期せぬ妊娠をした女性の支援を計画できる ②指導を受けながら、予期せぬ妊娠をした女性の支援に係る健康教育を計画できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事例を用いたレポート/予期せぬ妊娠をした女性への支援や健康教育を計画立案</li> <li>●シミュレーション(同僚・上司・教育係りを対象に計画した支援の場面、健康教育の運営と実施)</li> <li>●カンファレンス(病棟カンファレンス、ケースカンファレンス等への参加)</li> </ul>	
		多様な性の支援	①多様な性の支援を計画できる ②指導を受けながら、多様な性に係る健康教育を計画できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事例を用いたレポート/多様な性への支援や健康教育を計画立案</li> <li>●シミュレーション(同僚・上司・教育係りを対象に計画した支援の場面、健康教育の運営と実施)</li> <li>●カンファレンス(病棟カンファレンス、ケースカンファレンス等への参加)</li> </ul>	
		女性のメンタルヘルスケア	①女性のメンタルヘルスケアを計画できる ②指導を受けながら、女性のメンタルヘルスに係る健康教育を計画できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事例を用いたレポート/メンタルヘルスケアを要する女性への支援や健康教育を計画立案</li> <li>●関連する行政・保健医療職との連携についてレポーティング</li> <li>●シミュレーション(同僚・上司・教育係りを対象に計画した支援の場面、健康教育の運営と実施)</li> <li>●カンファレンス(病棟カンファレンス、ケースカンファレンス等への参加)</li> </ul>	

表3-5 「レベルⅢ」に対応した教育プログラム

到達目標: 1. 入院期間を通して、責任をもって妊産婦・新生児の助産ケアができる  
 2. 助産師外来において、個別性を考慮し、自律したケアができる  
 3. 助産師外来において、指導的な役割ができる  
 4. 院内助産において、自律してケアができる  
 5. ハイリスクへの移行を早期に発見し対処できる  
 6. ウィメンズヘルスクアを自律して実践できる

		教育目的(レベルⅢの目標)	教育方法と教育内容	教育の評価	
倫理的 感心 力	ケア リング の 姿勢	①レベルに合った対象へのケアについて、ケア提供した事例を具体的に思い浮かべながら、助産師としての姿勢を自己評価できる(ケアリング実践のための自己課題を明確にできる)	●カンファレンス(教育担当者や同僚とともに:自らの実践事例より、ケアリング行動や、その行動の妊産婦・家族にとっての意味を考える/今後の自らの助産実践における課題を明確にする)	●カンファレンスへの参加度や発言内容から教育担当者が評価し、本人へコメント	
	マタニティ ケア能力	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の診断とケア/分娩期の配慮の視点	<p><b>【情報収集】</b>                      ①妊娠期・分娩期・産褥期の健康生行動診断・経過診断/新生児期の経過診断に必要な情報を理論的な根拠に基づいて収集できる                      ②家族背景も考慮したアセスメントを行うために情報収集できる                      ③②の情報を、必要性・優先度を考慮して整理できる                      ④他の関連職種からも意図的に情報収集できる                      ⑤妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期におけるハイリスクの要因について、予測的判断をもち優先度を考慮して明らかにすることができる</p> <p><b>【アセスメント/問題(ニーズ)の明確化】</b>  <b>ローリスク</b>                      ①予測的判断をもち、潜在するニーズを明確にできる  <b>ハイリスク</b>                      ①潜在する助産問題を明確にできる                      ②助産ケアによって解決可能な問題と、薬剤の使用等治療を必要とする可能性がある問題に区別し、目標設定できる                      ③ハイリスクの要因について優先度を考慮して整理できる</p> <p><b>【診断】</b>  <b>ローリスク/ハイリスク</b>                      ①健康生行動診断・経過診断によって適切に診断できる                      ②診断した内容について、助産師によるケアでよいか、医師による医療介入が必要かを考慮した上で、優先順位を判断できる</p> <p><b>【計画立案】</b>  <b>ローリスク</b>                      ①妊産婦・新生児の家族の状況を踏まえた助産計画を立案できる                      ②状況に応じて計画立案・修正できる                      ③妊産婦および家族参加型の助産計画を立案・修正できる                      ④関連する保健医療職との連携も含めた計画を立案・修正できる  <b>ハイリスク</b>                      ①ハイリスク妊産婦・新生児に関する、個別性・優先度を考慮した助産計画を立案し、状況の変化に応じて修正できる                      ②緊急時に母体・胎児/新生児に必要な計画を立案できる</p> <p><b>【実践】</b>  <b>ローリスク/ハイリスク</b>                      ①計画に基づいて妊産婦、家族の反応を確認しながら助産ケアができる                      ②施設・部署全体の妊産婦・新生児に対するケアにおいて、中心的役割が実践できる                      ③妊産婦・新生児における緊急時に中心的役割ができる                      ④助産師外来において、教育・指導的役割ができる                      ⑤関連する他の保健医療職と連携して実践できる</p> <p><b>【評価】</b>                      ①提供した助産ケアについて、妊産婦・新生児、家族のニーズに合っていたか評価できる                      ②後輩・学生のロールモデルとなっているか自己評価できる</p>	●左記内容について事例を用いたレポート(場面を再構成できるように記述する)	●左記目標に挙げた内容について、レベルに合った診断・行動・評価ができていないかをレポートから抽出して、上司・同僚等と検討
専門的 自律能力		教育	教育指導	①新人や後輩、学生の指導において中心的役割を担うことができる ②病棟内の学習会で中心的役割を担うことができる ③施設内の教育(新人や後輩、学生)に関する企画・運営に参画できる ④成人学習のプロセスについて、基本的事項を理解できる ⑤あらゆる対象への保健指導を実施できる	●内部または外部講義(教育と指導/教育評価) ●振り返り
	自己開発		①自己のキャリアや専門性を踏まえ、計画的に院内外の継続教育プログラム・研修に参加できる ②専門分野を深めるための自己課題を明確にし、取り組むことができる ③取り組んだ結果を助産ケアに活用できる	●キャリアカウンセリング/目標管理面接	
	研究	①研究的取り組みを計画し、スタッフとともに実践できる ②研究的取り組みの結果を発表できる	●内部または外部講義(プレゼンテーション技法等) ●OJT(研究実践/学会等に1回は参加する)		
	コミュニケーション(対人関係)	<b>ローリスク/ハイリスク</b> ①自分の対応が相手に与える影響を予測しながら行動できる ②妊産婦、家族の反応の変化を見逃さず、受け止めることができる ③状況に応じてアサーティブなコミュニケーションをとることができる ④関連職種との間においても、良好な関係を維持できるようなかわりができる	●内部または外部講義(コミュニケーションの基本/具体的な対応) ●OJT ●左記内容について事例を用いたレポート	●左記目標に挙げた内容について、レベルに合った診断・行動・評価ができていないかをレポートから抽出して上司・同僚等と検討	
	倫理	社会性	①職務規定を理解し、スタッフがそれを遵守して行動できるように指導できる(正当な理由なく遅刻・早退・無断欠勤をしない等) ②スタッフが規定等に基づき、速やかに報告・連絡・相談できるように指導できる ③社会人またチームメンバーとして責任ある行動がとれるように指導できる	●レポート	●左記目標に挙げた内容について、レベルに合った診断・行動・評価ができていないかをレポートから抽出して上司・同僚等と検討
		助産倫理	①倫理的意決定のプロセスに参画できる ②①においては、対象・家族の視点を理解し、必要な情報提供等の支援ができる ③倫理的課題に対して、対象や家族、関連する職種と対話をもちながら、最善の選択ができるように行動できる ④法的根拠に基づいた実践ができる ⑤学生指導や研修生の実習に伴う助産師・看護師の法的責任について理解し、実践できる	●内部または外部講義(倫理的意決定)	
	管理(マネジメント)	安全	<b>【安全管理・安全確保】/【感染予防】/【災害・防災管理】/【情報管理】</b> ①療養環境が安全であるか常に配慮し、調整できる ②インシデント・アクシデント・感染防止・災害対策に関して中心的役割を担うことができる ③職員の安全が確保できる職場環境を整えるために取り組める ④医療機器を安全に使えるように環境調整できる ⑤医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(医薬品医療機器等法)等に関心をもつことができる	●演習(事例分析) ●OJT(感染対策/災害対策) ●シミュレーション(災害・防災訓練/妊産婦・新生児の緊急時の対応)	●シミュレーションでは、リーダーとしての役割がとれることを、実際に確認、振り返り
経済性		①自施設の物流システムを理解し運用ができる ②物品・薬品管理について経済性を考慮できる ③診療報酬制度等の医療政策に関心をもつことができる ④リーダーシップを発揮できる	●講義(日本の医療制度と診療報酬制度、母子等に関する制度・施策)	●知識の確認、振り返り	
リーダーシップ		①助産業務における調整機能を発揮できる ②他部門と連携、調整できる ③後輩からの相談を受け、支援できる	●講義(看護単位におけるリーダーシップ/助産管理の基本/助産ケアの質管理/助産業務管理)	●振り返り	

		中項目	教育目的(レベルⅢの目標)	教育方法と教育内容	教育の評価
ウイメンズヘルスケア能力	女性のライフサイクルの観点からの対象理解	女性のライフサイクルの観点から、女性の成長に伴う身体、精神と社会的機能状況(セクシュアリティやジェンダー含む)からの対象理解	①女性のライフサイクルの観点をアセスメントした支援を計画・実施・評価し、対象への理解を示せる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ケースレポート(教育目的に沿って記述)</li> <li>●カンファレンス/実践報告(実践事例をもとに教育目的に沿った内容の発表)</li> <li>●OJT(他部署研修)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●レベルに合った計画、実践と評価ができているかを評価</li> <li>●実践の振り返りとその内容の評価</li> </ul>
		女性とその家族の発達段階のアセスメントと理解	①女性とその家族の発達段階をアセスメントし、支援を計画・実施・評価できる		
		女性のライフサイクル特有の問題に関する自身の健康への自覚と管理に向けた啓発活動と評価	①女性のライフサイクル特有の問題の管理に向けた健康教育を計画・実施・評価できる		
		女性特有の疾患(婦人科疾患、骨粗鬆症等)のアセスメント、支援と評価	①女性特有の疾患を有する女性の支援を計画・実施・評価できる		
	ライフスタイルヘルス/ライツに基づく支援	産前・産後のメンタルヘルスケア	①自律して、産前・産後のメンタルヘルスケアを計画・実施・評価できる ②自律して、産前・産後のメンタルヘルスに係る健康教育を計画・実施・評価できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●OJT(実践、他部署短期間研修)</li> <li>●実践報告(学校、企業での性教育、プレコンセプションケア等の指導実践例の場面を再構成できるよう記述し、実際の支援場面のアセスメント、ケアとその評価までを記述する)</li> <li>●カンファレンス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実践に対する同僚・上司・教育係りによる評価</li> <li>●振り返り(レポート、カンファレンスにおける内容評価)</li> </ul>
		妊娠期からの子育て支援による胎児を含む子どもの虐待予防の支援	①自律して、妊娠期からの子育て支援による胎児を含む子どもの虐待予防を計画・実施・評価できる ②自律して、胎児を含む子どもの虐待予防に係る健康教育を計画・実施・評価できる		
		妊娠から子育て期において支援を必要とする母親とその家族の支援	①自律して、妊娠から子育て期における母親とその家族の支援を計画・実施・評価できる ②自律して、妊娠から子育て期における母親とその家族の支援に係る健康教育を計画・実施・評価できる		
		不妊、不育の悩みをもつ女性の支援(出生前診断含む)	①不妊、不育の悩みをもつ女性とパートナーの支援を計画・実施・評価できる ②不妊症、不育症に係る健康教育を計画・実施・評価できる		
		家族計画の支援	①女性とパートナーに対して、家族計画の支援を計画・実施・評価できる ②家族計画に係る健康教育を計画・実施・評価できる		
		性感染症予防の支援	①性感染症に罹患している女性とパートナーの支援を計画・実施・評価できる ②性感染症予防に係る健康教育を計画・実施・評価できる		
		月経異常や月経障害等を有する女性の支援(更年期の女性へのケアを含む)	①月経異常や月経障害等を有する女性の支援を計画・実施・評価できる ②月経異常や月経障害等に係る健康教育を計画・実施・評価できる		
		女性に対する暴力予防の支援(モラルハラスメント、DV、セクシュアルハラスメント、性的虐待を含む)	①暴力を受けた女性の支援を計画・実施・評価できる ②女性に対する暴力予防に係る健康教育を計画・実施・評価できる		
		予期せぬ妊娠をした女性の支援	①予期せぬ妊娠をした女性の支援を計画・実施・評価できる ②予期せぬ妊娠をした女性の支援に係る健康教育を計画・実施・評価できる		
		多様な性の支援	①多様な性の支援を計画・実施・評価できる ②多様な性に係る健康教育を計画・実施・評価できる		
女性のメンタルヘルスケア	①女性のメンタルヘルスケアを計画・実施・評価できる ②女性のメンタルヘルスに係る健康教育を計画・実施・評価できる				



表3-6 「レベルⅣ」に対応した教育プログラム

到達目標: 1. 創造的な助産ケアができる 2. 助産師外来において、指導的な役割ができる  
 3. 院内助産において、指導的な役割ができる 4. ローリスク/ハイリスク事例において、スタッフに対して教育的なかかわりができる 5. ウィメンズヘルスケアにおいて、スタッフに対して教育的な関わりができる

		教育目的(レベルⅣの目標)	教育方法と教育内容	教育の評価	
倫理的感応力	ケアリングの姿勢	①レベルに合った対象へのケアについて、ケア提供した事例を具体的に思い浮かべながら、助産師としての姿勢を自己評価できる(ケアリング実践のための自己課題を明確にできる) ②ケアリングの意味、主要概念や理論について、後輩・同僚に説明できる ③ケアリングの意味、主要概念や理論に基づいた助産ケアのために、後輩・同僚に教育・指導的役割ができる	●カンファレンス(教育担当者や同僚とともに:自らの実践事例より、ケアリング行動や、その行動の妊産褥婦・家族にとっての意味を考える/今後の自らの助産実践における課題を明確にする) ●ケアリング行動がとれている/とれていないスタッフへのかかわりを検討する	●カンファレンスへの参加度や発言内容から教育担当者が評価し、本人へコメント	
	マタニティケア能力	<p><b>【情報収集】</b> ①対象の個性や家族背景等全体をとらえ、必要な領域に的を絞り、選択的に情報収集できる</p> <p><b>【アセスメント/問題(ニーズ)の明確化】</b> <b>ローリスク/ハイリスク</b> ①診断プロセスに沿って対象のもつリスクを踏まえ正しく診断できる(院内助産対象の選定ができる) ②診断に至る根拠を他の助産師や医療チームメンバーに説明できる ③診断プロセスに沿った診断ができるように指導できる ④より複雑で困難なハイリスクの要因について優先度を考慮して整理できる</p> <p><b>【診断】</b> <b>ローリスク/ハイリスク</b> ①診断した内容を妊産褥婦を含めた医療チームで共有できる ②診断した内容や問題の優先順位について指導できる ③緊急時およびそれが予測される場合に、短時間で必要な情報収集・アセスメントを行い、優先順位を考慮して診断できる</p> <p><b>【計画立案】</b> <b>ローリスク/ハイリスク</b> ①妊産褥婦・新生児における優先度を考え、助産問題に適した方法論を用いて計画を立案できる ②対象の問題を解決するために適切な目標(到達・測定・評価)を設定することが可能な目標を設定できる ③計画立案のプロセスにおいて教育・指導的役割が実践できる(緊急時も含める)</p> <p><b>【実践】</b> <b>ローリスク/ハイリスク</b> ①助産ケアにおいて創造性と刷新性を発揮できる ②多様なアプローチを組み入れて助産ケアが実践できる ③緊急事態にリーダーシップを発揮し対応できる ④常に教育・指導的役割が実践できる ⑤教育・指導的役割のスタッフを支援できる</p> <p><b>【評価】</b> ①提供した助産ケアについて質的・量的に評価できる ②スタッフの助産ケアを評価し、指導できる</p>	●OJT ●レポート(場面の再構成)	●レポートをもとにした振り返り	
専門的自律能力	教育	教育指導	①自己のキャリアや専門性を踏まえ、計画的に院内外の継続教育プログラム・研修に参画できる ②施設内の教育(新人や後輩、学生)の企画・運営も含めて、中心的な役割ができる ③②について、他部門との連携も考慮して企画・運営できる ④病棟内の目標を達成するために、後輩が具体的に行動できるよう支援できる ⑤教育に関する知識を活かして、後輩が能力を活かせるよう支援できる ⑥保健指導に関して、教育・指導的な役割を担うことができる	●演習(教育場面の振り返り/教育評価) ●振り返り	●知識の確認、振り返り
		自己開発	①自分のキャリアプラン(教育・管理・実践)を計画できる ②計画を実行するための具体的な方法を考え、進めることができる	●キャリアカウンセリング/目標管理面接	
	研究	①研究的取り組みの結果を助産ケアで応用できる ②研究的取り組みを進め、結果を院内外に広めることができる	●OJT(研究成果の報告/報告内容を皆で評価する)		
	対人関係	<b>ローリスク/ハイリスク</b> ①妊産褥婦、家族と、よりよいパートナーシップが築ける ②妊産褥婦・新生児、家族に対して助産ケアを行いながら、反応や周囲の状況を把握し、妊産褥婦・新生児、家族を尊重した適切なコミュニケーションを図ることができる ③コミュニケーションに関して、教育・指導的な役割ができる	●内部または外部講義(コミュニケーションの基本/具体的な対応) ●OJT ●左記内容について事例を用いたレポート	●左記目標に挙げた内容について、レベルに合った診断・行動・評価ができていないかをレポートから抽出して、上司・同僚等と検討	
	倫理	社会性	①職務規定の重要性を認識し、自ら実践するとともに、後輩の指導ができる	●左記に関連する実践事例のレポート	●左記目標に挙げた内容について、レベルに合った診断・行動・評価ができていないかをレポートから抽出して、上司・同僚等と検討
		助産倫理	①倫理的意思決定場面においてコーディネートの役割を担うことができる ②自部署における倫理的な感受性を高めるよう行動できる ③学生指導や研修生の実習に伴う法的根拠について、教育・指導的役割が実践できる	●演習(倫理的意思決定にかかわった事例についての事例検討)	●グループでの評価
管理(マネジメント)	安全	<b>【安全管理・安全確保】/【感染予防】/【災害・防災管理】/【情報管理】</b> ①療養環境が安全であるか常に配慮し、後輩に教えることができる ②インシデント・アクシデントレポートから、看護単位における問題を発見できる ③②の問題に対して、看護管理者とともに解決策を考えることができる ④対策を実施し、その結果を評価、フィードバックできる	●演習(事例分析) ●OJT(感染対策/災害対策) ●シミュレーション(災害・防災訓練/妊産褥婦・新生児の緊急時の対応)	●シミュレーションでは、その企画から、全体の統括、評価者の役割をとることができているか、確認、振り返り	
	経済性	①自部署の物品管理を積極的に行い、問題提起できる ②看護単位における予算の流れが理解できる ③診療報酬制度に基づき、自部署の課題を明確化できる	●講義(助産と経済性)		
	リーダーシップ	①看護部や看護単位の目標に基づいた活動を推進できる ②看護単位における委員会や係、会議の推進ができる ③看護単位の業務改善に主導的な立場で取り組むことができる ④後輩と師長・監督職とのパイプ役となる ⑤自己の判断のできることで、できないことが区別できる	●講義(助産師外来・ケアを評価するためのインジケータ/データに基づいた質評価)	●知識の確認、振り返り	

		中項目	教育目的(レベルⅣの目標)	教育方法と教育内容	教育の評価	
ウイメンズヘルスケア能力	女性のライフサイクルの観点からの対象理解	女性のライフサイクルの観点から、女性の成長に伴う身体、精神と社会的機能状況(セクシュアリティやジェンダー含む)からの対象理解	①すべてのライフステージの女性を理解するために必要な支援体制を構築し、対象への理解を示せる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●OJT(多職種・多機関連携)</li> <li>●ケースレポート、カンファレンス(実践事例をもとに教育目的に沿った内容の記述や発表)</li> </ul>	●レベルに合った計画、実践と評価ができていないかを評価	
		女性とその家族の発達段階のアセスメントと理解	①女性とその家族の発達段階の理解に必要な知識や支援体制を構築し、評価できる			
		女性のライフサイクル特有の問題に関する自身の健康への自覚と管理に向けた啓発活動と評価	①女性のライフサイクル特有の問題に関する健康への自覚と管理に向けた健康教育について体制を構築し、評価できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●OJT(多職種・多機関連携、健康教育の実施、啓発活動の実践)</li> <li>●実践報告</li> </ul>		
		女性特有の疾患(婦人科疾患、骨粗鬆症等)のアセスメント、支援と評価	①女性特有の疾患を有する女性に必要な知識や支援等について、体制を構築し、評価できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●OJT(多職種・多機関連携)</li> <li>●ケースレポート、カンファレンス/実践報告(実践事例をもとに教育目的に沿った内容の記述や発表)</li> </ul>		
	リプロダクティブヘルス/ライツに基づく支援	産前・産後のメンタルヘルスケア	①産前・産後のメンタルヘルスケアの知識や支援等について、教育的指導を行い、評価できる ②産前・産後のメンタルヘルスに係る健康教育について体制を構築し、評価できる		<ul style="list-style-type: none"> <li>●OJT(実践)</li> <li>●実践報告(実践例の報告に加え、後輩への指導場面、多職種・多機関との連携場面も含める)</li> <li>●後輩指導</li> <li>●施設内、施設間の支援体制構築(連絡会議、マニュアル作成等)</li> </ul>	●実践に対する同僚・上司による評価 ●振り返り(レポート、カンファレンスにおける内容評価) ●後輩からの指導評価
		妊娠期からの子育て支援による胎児を含む子どもの虐待予防の支援	①妊娠期からの子育て支援による胎児を含む子どもの虐待予防の知識や支援等について、教育的指導を行い、評価できる ②妊娠期からの子育て支援による胎児を含む子どもの虐待予防に係る健康教育について体制を構築し、評価できる			
		妊娠から子育て期において支援を必要とする母親とその家族の支援	①妊娠から子育て期における母親とその家族の知識や支援等について、教育的指導を行い、評価できる ②妊娠から子育て期における母親とその家族の支援に係る健康教育について体制を構築し、評価できる			
		不妊、不育の悩みをもつ女性の支援(出生前診断含む)	①不妊、不育の悩みをもつ女性とパートナーに必要な知識や支援等について、教育的指導を行い、評価できる ②不妊症、不育症に係る健康教育について体制を構築し、評価できる			
		家族計画の支援	①家族計画に必要な知識や支援等について、教育的指導を行い、評価できる ②家族計画に係る健康教育について体制を構築し、評価できる			
		性感染症予防の支援	①性感染症に罹患している女性とパートナーに必要な知識や支援等について、教育的指導を行い、評価できる ②性感染症予防に係る健康教育について体制を構築し、評価できる			
		月経異常や月経障害等を有する女性の支援(更年期の女性へのケアを含む)	①月経異常や月経障害等を有する女性に必要な知識や支援等について、教育的指導を行い、評価できる ②月経異常や月経障害等に係る健康教育について体制を構築し、評価できる			
		女性に対する暴力予防の支援(モラルハラスメント、DV、セクシュアルハラスメント、性的虐待を含む)	①暴力を受けた女性に必要な知識や支援等について、教育的指導を行い、評価できる ②女性に対する暴力予防に係る健康教育について体制を構築し、評価できる			
		予期せぬ妊娠をした女性の支援	①予期せぬ妊娠をした女性に必要な知識や支援等について、教育的指導を行い、評価できる ②予期せぬ妊娠をした女性の支援に係る健康教育について体制を構築し、評価できる			
多様な性の支援	①多様な性の知識や支援等について、教育的指導を行い、評価できる ②多様な性に係る健康教育について体制を構築し、評価できる					
女性のメンタルヘルスケア	①女性のメンタルヘルスケアの知識や支援等について、教育的指導を行い、評価できる ②女性のメンタルヘルスに係る健康教育について体制を構築し、評価できる					